

6年 総合的な学習の時間

共に生きる ―お年寄りや障害のある人々とのふれ合いから―

岩坪 智恵子

ボランティアプロジェクトスタート！6月1日（木）

2組の子どもたち38人でみしま野苑を訪問し、運動会で発表した鼓笛隊演奏を6の2流にアレンジして演奏してきた。道中のにぎやかな演奏に道行く方々からも注目された。みしま野苑では、入所者のお年寄りがきちんと並んで待っておられ、かけ声の声援や手拍子、大きな拍手で歓迎された。子どもたちは喜んでもらえることの楽しさを味わうことができた。



おじいさん、おばあさん、お元気ですか？この間は演奏を聴いてくださってありがとうございました。「かっこいいぞ」とか「がんばれ」などと言ってくれたとき、すごくうれしかったです。最後の拍手も大きな拍手でとてもうれしかったです。（中略）みなさんに喜んでいただけたのがんばってよかったなあと思いました。だから、みなさんも病気に負けずにがんばってください。 S.T ~手紙より~

<鼓笛演奏を発表します>

できることを見つけてやってみよう。7月6日（木）

喜んでもらえることの楽しさを
知った子どもたちは自信をもち始め
「今度は窓ガラスをきれいにしよう」
「いっしょに遊ぶのもいいかな」
「ぼくは折り紙で・・・」などと、
自分なりに考えた方法で取り組み始め
た。



<いっしょに折り紙をしよう>

<ぼくは肩をたたくよ>

（前略）一番心に残ったのは、お世話する人も大変だということです。周りでお世話をしている人に今度から「がんばってください」「お疲れ様です」と、言おうと思います。 M.A



子どもたちは、みしま野苑でのお年寄りとのふれあいを重ねる中で、そこで働く人々のことをも思いやれるようになってきた。また、お年寄りの <風船で遊ぼう>
喜びの表情や涙の意味を自分なりに考えられるようになってきた。そして、
このことは自分たちの周囲のいろいろな立場の人々の存在にも目を向けるきっかけともなった。

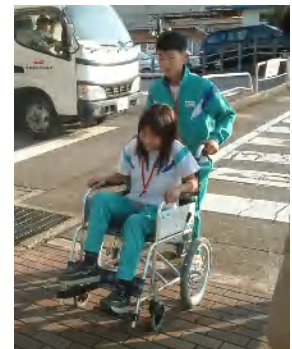
（前略）このおばあちゃんは、戦争で学校へ行きたくても行けなかったのだと思いました。私はつられて泣きそうになりました。おばあちゃんが話してくれたとおり、私はちゃんと学校へ行こうと思いました。私は平成生まれです。戦争もなく、平和なときに生まれました。みしま野苑の方々はきっと戦争でつらい思いをしてきた人がいると思います。それを考えていたら急に悲しくなってきた、目に涙がありました。私は平成の時代に生まれて幸せなのだと思います。今の老人の人たちみんなが元気で明るくしてほしいと思いました。私は戦争のない今、自分がやりたいことができる今を大切に生きたいです。 S.T

交通バリアフリー教室への参加 10月30日(月)

2学期になり、国語科の学習「みんなで生きる町」との関連から、自分たちの周囲のいろいろな立場の人が互いに助け合って、みんなが幸せに生きることができるようにするにはどうあるべきかを考えた。そして、まず、自分たちの地域の実態を調べる活動を開始した。その活動の発展が「交通バリアフリー教室」への参加である。ここでは障害のある方々のお話を聞いたり「視



覚障害体験」「車いす体験」「高齢者疑似体験」の3つのグループに別れ、それぞれの立場の疑似体験をしたりした。例えば、高齢者疑似体験では装具を付けてお年寄りに変身する。ポケットに1kgのおもりを二つ、手首足首にもおもりをつける。その上、耳せんをつけ、目には白内障と同じようになるように、うっすらと見えるゴーグルのようなめがねをつける。さらにひじやひざが曲がりにくくなるようにギブスで固定する。また、指は人差し指と中指、薬指と小指をそれぞれ2本ずつしばり手袋をはめる。これでお年寄りのできあがりとなる。



＜段差が苦しい＞

＜サポートも大変＞

たった1cmの段差を登るのも大変なことを考えると、世の中から段差をなくして、車いすに乗っている人たちの毎日を楽しませてあげられたらいいなと思いました。 M.M

私がいつも普通に歩いている道も、車いすでは、ななめのところや段差のところがとてもいっぱい見つかりました。少しの段差でもとても力があるので、車いすを使っている人は大変だなあと感じました。だから、私は困っている人がいたら助けてあげたいと思います。 M.H

みんなで考えよう心のバリアフリー

11月9日(木)

心のバリアフリーを知っていますか？

子どもたちは活動を通して「心のバリアフリー」とは「思いやりの心」であるということを知った。そして、自分たちが体験したことや調べたこと、考えたことを全校のみんなにも広めようと全校児童人権集会において発表を行った。これらのことから、子どもたちはお年寄りや障害のある人々など、困っている人の気持ちを思いやる気持ちが増したように思う。そして、このことは、自分たちがいろいろな立場の人みんなと支え合って、よりよく生きていこうとする気持ちにもつながってきたと思われた。

現在ではトイレやエレベーターなど、色々な施設設備が工夫されるようになってきています。車いすですぐ電車にのるときには便利な板があるということも分かりました。私たちに教えてくださった先生は電動車いすで飛行機に乗ってドイツ、フランス、アメリカに行ってきたそうです。しかし、どんなに、設備が整っても本当に大切なのは人の思いやりの心です。例えば、サポートする人とされる人にとって本当に大切なのは、人を信頼することだそうです。私は体験を通して、相手を信じることの大切さが分かりました。困っている人がいたら「お手伝いすることはありませんか」と言えるそんな社会にしていきたいと思います。私たち杉っ子も、お年寄りや障害のある人、また、困っている人に、だれもが、ごく自然に声をかけてサポートできる心のバリアフリー社会を目指していきましょう。

～全校児童人権集会での発表より～